

前回部会における質問事項に関する事務局回答について

1 茨木市の十日市浄水場について

- ① 水源である浅井戸は、河川（伏流水）の影響を受けていないか。
- ② 浅井戸は周辺の土地開発の影響を受けやすく、上流で汚染物質が流出すると短期間で影響が現れることから、地下水の流向も考慮し、浅井戸の涵養域が保護されていることを確認すべきではないか。

(事務局回答)

- ① 浅井戸は十日市浄水場内に設置されており、茨木市の水源調査により、浅井戸の水源の水位が安威川の水位よりも高い等の理由により、水源（浅井戸）が安威川（伏流水）の影響を受けていないことを確認している。
- ② 十日市浄水場から約1 km周辺に、有害物質使用事業場が4事業所所在しているが、いずれも、十日市浄水場より下流域（南側）にあるか、又は安威川を挟んだ対岸にあることから、当該事業場による水源（浅井戸）への影響はないと考えられる。

なお、地下水の水質汚濁防止にあたっては、公共用水域の水質汚濁防止を目的とした工場・事業場からの排水規制とは別に、水質汚濁防止法や生活環境保全条例に基づき、工場・事業場に対して、地下水の環境基準よりも厳しい基準の地下浸透規制を適用している。

2 大阪府内に、ふっ素等が多く含有される地質は存在するか。

(事務局回答)

- 府域における自然地盤に含まれる重金属等のうち、砒素、鉛、ふっ素及びほう素の地層中での分布状況や地下水の検出傾向については以下のとおり。
- ・大阪市内の沖積層では、砒素、鉛、ふっ素、ほう素の溶出量が高い傾向があり、特に、ふっ素、ほう素については、沖積中部粘土層（Ma13層）において高い傾向がある。
 - ・北部の北摂山地では、地層に砒素が黄鉄鉱等の硫化物鉱物中の不純物として存在しており、これを母岩とする湧水において砒素濃度が高い。
 - ・千里丘陵の地質には、大阪層群や丹波層群の堆積岩が存在し、一部の地層に砒素が含有されている。
 - ・南部の和泉山地では、花崗岩質等の基盤岩類の分布が見られ、花崗岩質にはふっ素、ほう素を含有されていることから、地下水においてふっ素、ほう素が検出されやすい傾向がある。

<出典>平成29年度第3回大阪府環境審議会土壤汚染対策検討部会

(資料3)「生活環境保全条例に基づく土壤汚染対策のあり方検討について」より抜粋